



万願成就を願う荒行

**い** 若宮八幡神社「湯立神事」  
にしえから続く神秘のまつり(三本木)

10月27日、三本木地域若宮八幡神社で秋の例大祭の筒まつり「湯立神事」が行われました。この神事は、氏子が用意した湯がまの煮えたぎるお湯を神官が熊笹を使ってかぶる荒行で、万願成就を願って行われるものです。その歴史は古く、市の無形文化財に登録されています。また、プレDC期間の今年は三本木地域実行委員会が「奇祭湯立神事見学とまほろしの上伊場野芋試食」というツアーを企画。地域の人がばかりでなく、市内外からもたくさんの方が訪れ、神秘的な荒行を神秘的な面持ちで見つめていました。



力を貸してくれた木工系のご研究室の皆さん、ありがとうございました

**立** 市民憲章板引渡式  
派な市民憲章板ができました(古川)

11月1日、市役所本庁舎において「市民憲章板引渡式」が行われ、製作していただいた古川リサイクルデザイン展示館で活動している「木工系のご研究室」の皆さんから伊藤市長へ市民憲章板が贈呈されました。

この憲章板は、昨年11月に制定された市民憲章を、より多くの市民に知ってもらうために作られ、文字の切り出し作業から、貼り付け、仕上げまで約一か月半もの時間を費やして作られた大作です。この憲章板は、11月5日から市役所本庁舎正面玄関に掲示しています。

11月18日、早稲田棧敷湯を会場に、温泉ビューティ研究家の石井宏子さんを講師に「温泉ビューティ講座」が開催されました。

石井さんは、「さまざまな成分が含まれる温泉は、美人の素のカクテル」と表現し、きれいになるための温泉の活用法や、温泉に入りながら行う気持ちよくなる体操を実演しました。お勧めの入浴方法や、意外に知らなかった美しく・健康でいるための秘けつを、参加者の皆さんは楽しみながら学んでいました。

温泉ビューティ講座  
**温泉効果で美しく!** (鳴子温泉)

泉質の見方や温泉の入り方など楽しく教えてくれました



11月11日、松山酒ミュージアムやふるさと歴史館などを会場に「松山邑まつり」が開催されました。

会場では、新米でできたしほりたての新酒やつきたてのもちが振る舞われ、松山小学校児童による金津流獅子躍・次橋神楽などの伝統芸能が披露されました。また、わらの文化を紹介する民具・農具の展示コーナーでは、俵やわらじづくりの実演が行われ、参加した皆さんは興味深く見入っていました。小雨まじりの天気にもかかわらず、多くの人が地域の伝統と文化を実感するイベントとなりました。

松山邑まつり  
**地域の伝統・文化を体感**(松山)



民具・農具の展示コーナーは大盛況



マガン楽園号出発!

**蕪** マガンのねぐら入りを見に行こう!  
栗沼観察がより気軽に便利に(田尻)

10月27日、JR田尻駅で「マガンの観察会出発式およびJR田尻駅蕪栗沼臨時案内所開設式」が行われました。

参加した皆さんは、臨時運行バス「マガン楽園号」で蕪栗沼に向かい、大迫力の「マガンのねぐら入り」を観察しました。この観察会は、田尻駅から加護坊温泉さくらの湯を経て、蕪栗沼でマガンを観察するもので、12月22日まで毎週土曜日に行われます。田尻駅構内に開設された臨時案内所は、12月24日までの毎週土・日曜日、祝日に利用できます。ぜひ一度、マガンの楽園蕪栗沼を訪れてみませんか。



秋の祭典を楽しむ人たちが賑わいました

鹿島台秋の互市  
**秋の旬が勢ぞろい**(鹿島台)

11月10日から12日までの3日間、鹿島台地域恒例の秋の「互市」が開催されました。

鹿島台の互市は、明治43年から現在まで97年間も続く、東北最大級の市です。店頭には、地場産の農産加工品、海産物、生活雑貨、衣類などさまざまな商品が並びます。期間中は、お目当ての商品を買い求めて8万人もの人が訪れ、お店の人との会話や散策を楽しみました。初冬の風物詩となっている秋の互市が終わると、まもなく本格的な冬が訪れます。



家庭の生ゴミを使っての肥料づくりを勉強中



新鮮野菜の直売会では、さまざまな品物が並んでいました

自然を大切に  
**自然を大切に**した地域づくりを(岩出山)

11月4日、西大崎地区館と西大崎小学校体育館を会場に、自然との共生や地域づくりを考える「西大崎エコライフ・フェスティバル」が開催され、約150人が参加しました。

記念講演では、地域再生の立役者として全国から注目されている、鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館長の豊重哲郎氏から「感動の地域再生」という演題で貴重な講話をいただき、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

講演後には、新米と秋の味覚が盛りだくさんのまごころ鍋が振る舞われたほか、新鮮野菜の直売会や展示体験コーナー、リサイクルバザーなどが行われました。その中でも、家庭の生ゴミを使って家庭菜園や花作りに活用できる肥料の作りかたを披露した、西大崎生ゴミリサイクル研究会「とまとクラブ」による生ゴミリサイクルのワークショップに注目が集まりました。環境保全やごみの減量が課題となっている今、参加者の皆さんは、リサイクルの重要性をあらためて再確認していました。

この日は参加者にとって、自然を大切にするための地域の取り組みが体験できた有意義な1日となったようです。